

市民の誇り初代市長と亀屋薬舗



我が国に初めて市制が施行されたのは明治22年、県下でただ1つの市として赤間関市が誕生しました。

この時の初代市長が、伊藤房次郎です。

彼は、当時西之端にあった薬商亀屋(伊藤家、現赤間本通り)に養子として迎えられ、大いにのれんを盛り立て、幕末には当主となります。

4カ国連合下関砲撃事件など風雲急を告げるとき、房次郎は藩に軍艦購入の費用など多額の献金を行い、新時代の到来に貢献します。

そして、新しい地方行政の区長就任、続いて県会議員、当時赤間関商法会議所頭取を経て、下関の草創のリーダーとなり、郷土の発展の礎となるのです。